

JR東海=「のぞみ34号」台車製造不備で、川崎重工製から日本車両製造製へ交換決める・・・ ところが日本車両製造製の同型台車でも傷入台車4台見つかる！

会社は、3月9日、「のぞみ34号」台車亀裂事故を受け、川崎重工業製の台車49台を、全て小会社である日本車両製造製の台車に交換することをマスコミ報道を通じて明らかにしました。

しかし、その後、14日になって、超音波検査で日本車両製造製の同型台車においても、「のぞみ34号」の台車枠亀裂の起点となった箇所と同じ「軸バネ座」の溶接部に傷がある台車が4台（JR東海2台、JR西日本2台）発見された、と新聞が報じて明らかにしました。会社は、この事態をいつの時点で掴んでいたのでしょうか。マスコミから問い合わせがなければ、発表しなかったのでしょうか。

報道によると、会社は、今回発見された傷に対し、「傷と厚さ不足の2つがそろわなければ亀裂はできず、安全性に問題ない」と説明しています。しかし、一方では、「大事を取って交換した」としています。

子会社である日本車両製造も、調査の結果、傷が溶接作業時にできたことを認めた上で、「強度に問題はなかった」と見解を述べています。

ちょっと待ってください！JR東海も日本車両製造も、何を根拠に「安全性に問題ない」「強度に問題ない」と言い切れるのでしょうか。重大な事態であったとの受け止めはないのでしょうか。事故は想定外の時に起きるのです。「のぞみ34号」の車両も、「安全上問題はなかった」から日々乗客を乗せ運用していたのではないのでしょうか。それでも事故は起きたのです。一早く「責任回避」のコメントを出す前に、言うべきことは他にないのでしょうか。

鋼材の厚さが基準値に満たない台車を装着して、今日も多くの乗客を乗せ、新幹線を運行していること自体、安全上大問題です。このような企業体質こそ問われるべきです！

「傷と厚さ不足の2つがそろわなければ亀裂はできず、安全性に問題ない」と言い切る会社！
「安全上問題ない」はずの列車で事故は起きたのだ！何を根拠に安全と言いきれるのか！